

佐賀県立図書館だより

くすかぜ

2008 冬号 —第512号—



「図書館先進県」を目指しています

佐賀県



佐賀の史料

—古くて新しきもの—

佐賀県近世史料編さん委員
小宮 睦之

私の書齋で最も威張っている本は「佐賀県史料集成（三十巻）」と「佐賀県近世史料」（既刊十五巻）である。史料集成は三好不二雄先生が生涯をかけた労作であり、文書が中心で国内はおろか、海外の日本史研究者にも高い評価を得ている。近世史料はこれに続く企画で記録類を中心に佐賀の近世の歴史と文化を学ぶ上で必備の史料であり、これを利用した論文も多く見られる様になり、佐賀が目される様になった。この両史料集は半世紀以上にわたる佐賀県立図書館の輝かしい事業である。また、長期にわたる事業を許可してきた佐賀県側の高い識見に支えられている。

地方の自立、自治の論議が盛んである。地方がその歴史と文化の伝統に立って自負を持ってアイデンティティを主張することは正しい方向である。地方が独自の歴史と文化を主張するためには客観的で基本的な正しい情報を発信しなければならない。

史料集というのはその情報発信の基礎データである。文書・記録は人が書いたものであるので、その成立の背景を吟味することは当然である。史料の吟味・批判は必要である。

しかし、史料を離れて歴史・文化を考えることは不可能なことであり、人との史実や、文化について議論ができないし、一人よがりのお国自慢に墮する危険さもある。史料集というのは地味ではあるが批判に耐えて最も永く残る本である。

昨日の食事を忘れても嘉瀬川の古い呼称を史料集成で調べることは困難ではない。

今年の春に近世史料の十六冊目として「幕末伊東次兵衛出張日記」が刊行される。築地の反射炉が築かれた嘉永三年から明治維新の慶応四年までの二十三冊の日記が活字化される。二十数回の長崎出張、大坂、京都、江戸への公務出張があり、佐賀藩動向の実相が記されている。佐賀藩の海外や国内情報がどんなものであったか。この史料なしには幕末は語れないし、また、内容が非常に楽しい。単純ではない佐賀藩の幕末への対応を語ってくれると期待している。

目次

● 巻頭言「佐賀の史料」	1 P
● 図書館からのお知らせ	2 P
● 図書館活用講座参加者大募集	3 P
● メモリアルブック制度がスタートしました	4 P
● 本で見る佐賀	4 P
● 図書館の上手な活用法（第3回）	5 P
● 第2回郷土研究講座 歴史への関心	6 P
● 第1回ふるさと人物伝 久米邦武の見た幕末・明治	7 P
● レファレンス事例から	8 P
● 行事予定 ● 開館日カレンダー	

佐賀県立図書館のご案内

所在地 / 〒840-0041
佐賀市城内2-1-41 (県庁東)

T E L / 0952-24-2900
F A X / 0952-25-7049

Eメール / saga-kentosyo@manabisaga.jp
ホームページ / <http://www.pref.saga.lg.jp/kentosyo/>

開館時間 / 9:00～20:00
[児童閲覧室は10:00～17:00]

休館日 / 毎月の最後の水曜日